

頑張る 大垣市の災害ボランティア

東日本大震災で被災した岩手県の陸前高田市や大槌町は自治体職員の1/4が死亡や行方不明となっています。震災から4カ月を経て、不眠不休でがんばってきた自治体職員も、力尽きて倒れる人が続出していると聞きます。大垣市は長期の技術職員派遣を今後予定していますが、大垣市社協も7次にわたって「大垣市災害ボランティア隊」を派遣しています。ボランティアをレポートしました。

大垣市議会議員 笹田トヨ子

大垣市民として取り組む ボランティア活動



今までは4月と5月にそれぞれ1回ずつボランティアを派遣しています。7月25日から9月11日まで、「大垣市災害ボランティア隊」として毎週30名弱のボランティアを一週間ずつ派遣します。参加費は2万7千円。格安です。ボランティアの場所は岩手県大槌町で、バスでの移動、旅館での宿泊（釜石市）、食費もすべて含まれています。ぜひ、ご参加ください。

大規模災害時の対応



大槌町の場合では、町長や市の幹部、社協の幹部が災害の犠牲になっており、現在でも行政機能が十分ではありません。そのため、当初は岩手県の社協がまず現地に入り、下準備をし、その後、全国から割り当てられた社協が入り（今回は東海ブロック）、ボランティアセンターを立ち上げ、一元的にボランティアの受け入れをしています。大垣市社協も、主な職員はすべてボランティアコーディネートの研修を受けており、定

期的にコーディネートのシミュレーションも行い、災害時に備えています。加えて、市の防災計画の中に社会福祉協議会が明確に位置づけられているなど、行政との連携もはっきりと位置づけられています。

大垣としての備え



今回のインタビューを通して、社協も阪神大震災から今回の東日本大震災を経て、かなり経験の蓄積が進んでおり、組織体制が洗練されていることが分かりました。災害直後の緊急時には、外部からのボランティアの受け入れが欠かせません。ぜひ、柔軟な受け入れ体制を準備していただきたいです。

その上で、気になったことが何点かあります。

- ・想定される災害に対して、具体的な対応策
 - ・医師、看護師、保育士などの専門家ボランティアの受け入れ体制（災害直後、別枠で必要）
 - ・行政との災害シミュレーションの必要性、具体的な連携方法、手順の確立
 - ・平常時からの、災害市民ボランティアの組織化。
- 大規模災害時に的確に対応できるよう、今から可能な限りの備えしておくことが大切です。

大垣市社会福祉協議会

「大垣市災害ボランティア隊」

- 活動場所：岩手県大槌町
- 宿泊場所：陸中海岸グランドホテル別館
- 募集人数：各回30名(先着順)
- 移動手段：貸切バス
- 参加費：27,000円(4泊3食付の宿泊費)
- 活動内容：避難所等から応急仮設住宅等へ入居後の被災者に対する生活支援活動
- 所持品：保険証、運転免許証、防塵マスク、軍手、合羽、安全靴、タオル、ウエットティッシュ、帽子またはヘルメット、ゴーグル、洗面用具など
※各自でご準備下さい。

●応募条件

- ①高校生以上。未成年の方は親権者の同意が必要。
 - ②心身ともに健康で、自分の健康管理ができること。
- その他：バスの費用およびボランティア活動保険については主催者にて負担します。
※参加者には事前オリエンテーション。

●申込方法

- ・各回締切日までに、窓口にてお申込みいただくか、活動申込書に必要事項を記載の上、FAXもしくはメールにてご提出ください。

●申込み問合せ先

大垣市ボランティア市民活動支援センター
大垣市馬場町124 総合福祉会館内

Tel:78-8181 FAX:81-6200

メールアドレス volunteer@ogakishakyo.or.jp